

# さくらんぼ

東根市立神町小学校だより

第 3 号

平成29年7月 7日

TEL 47-0035

FAX 47-0275

## 「協力」は「友情」を育み「感謝」を生む

校長 長瀬 広幸

小学校生活の忘れられない思い出の一つに必ず挙げられるのが、自然の家で行う宿泊体験学習です。本校の5年生も、6月の最終週に、朝日少年自然の家で実施しました。

自然の家では、二泊三日を仲間と共に過ごし、山の中を冒険したり、野外で炊飯活動を行ったり、大江町の中をオリエンテーリングしたりと、日頃、学校の中では体験できない活動にチャレンジします。今年の5年生は、二泊連続のテント泊、そして、食事は館内食を一切なしにして、野外での自炊を基本にしました。これは、最も難度の高い挑戦であり、最も理想的でもある自然の家での活動です。それは、繰り返しの活動があることで、失敗して学んだことを次に生かす場があるからです。1回目の炊飯活動で、ご飯が焦げてしまったり、おかゆになってしまったりしても、何がいけなかったかを考えて次の活動に生かすことができるからです。子どもたちは回を重ねるごとに自信を付けていき、動きも無駄がなく洗練されていきました。最後の食器点検も全ての班が一発合格と、難易度の高い取組を時間内に確実にやり遂げたことについて、自然の家の職員の方々からたくさんのお褒めの言葉をいただきました。そのことで子どもたちは、さらに自信を深め、活動の達成感を高めることができました。

そして、何よりの思い出が、仲間との「協力」です。一人ではできない協働的な活動ですから、仲間と力を合わせる必要があります。このことが、子どもたちの心に強く刻み込まれる理由なのです。時には、意見が合わず言い争いになることもあります。すねてそっぽを向いてしまうこともあります。でも、それを乗り越えていかないとテントは立ちません。ご飯もできません。ゴールもできません。活動を通して仲間と協力する意味を深く実感するのです。

「協力」は「友情」を育み「感謝」を生み出します。私は、解散式で子どもたちに、「宿泊体験学習を終えた今、だれに感謝したいですか？」と問いかけました。すると、子どもたちは、「家族」、「先生」、「みんな」と口々に答えました。全部正解です。自分でやってみて、その大変さを理解し、初めて自分がたくさんの人に支えられていることが分かります。自立とは、依存していることの自覚であると言います。「感謝」できるみんなは、自立した神小っ子です。

